



国立研究開発法人
国立国際医療研究センター

National Center for Global Health and Medicine

国府台

発行人 〒272-8516 千葉県市川市国府台1-7-1
国立国際医療研究センター国府台病院長 上村 直実
TEL:047(372)3501 FAX:047(372)1858

2017. 2月

第34号



[日蓮宗大本山・正中山法華経寺]

千葉県市川市中山にある日蓮の重要な遺跡及び宗門史上顕著な沿革のある寺院です。

— 目 次 —

◇新任医師の挨拶	・・・・・・・・	2
◇院内サービス部門のご案内（ヘアサロンヒカリ）	・・・・・・・・	2
◇職場紹介（手術部門）	・・・・・・・・	3
◇栄養一口メモ	・・・・・・・・	3
◇地域医療連携病院のご紹介	・・・・・・・・	4
◇第2回院内感染対策研修会開催報告	・・・・・・・・	4
◇第18回オープンカンファレンス開催報告	・・・・・・・・	5
◇児童精神科病棟の行事	・・・・・・・・	5
◇第1回国府台病院 病院祭開催のご報告	・・・・・・・・	6～7
◇クリスマスコンサートのご報告	・・・・・・・・	8
◇第24回肝臓病教室の開催報告	・・・・・・・・	8
◇地域医療連携室からのお知らせ（消化器・肝臓内科）	・・・・・・・・	9
◇市民公開講座のご報告	・・・・・・・・	9
◇第2回院医療安全研修開催報告	・・・・・・・・	10
◇第25回肝臓病教室のご案内	・・・・・・・・	10
◇編集だより	・・・・・・・・	11

新任医師の挨拶

本年1月に着任した医師を紹介します。
どうぞよろしくお願いいたします。

(麻酔科医師 白石 成二)

本年1月1日付けで麻酔科に赴任しました白石です。よろしくお願いいたします。

医師になって30年以上（1984年卒）が過ぎ、九州、四国、中国地方、関西、関東と大学を含めていろいろな病院に勤務してまいりました。

若い頃、先輩医師に麻酔科のモットーは、「優しく、素早く、かっこ良く」だと言われたことがあります。もちろん、最初の優しくは患者さんに対して優しくであり、後は麻酔の手技を磨きなさいということだったと思います。ただ、最近は、患者さんに優しい麻酔は心がけているつもりですが、近くが見えにくくなったせいか（？）技術の方は少し疎かになって来ているのではと反省をしているところです。外科系の先生方にはご迷惑をおかけすることがあるかも知れませんが、よろしくお願いいたします。

また、前任地では、痛みの研究、特に難治性の神経障害性疼痛やがん性疼痛の発症メカニズムや新規の治療法について研究を行ってきました。今後、この研究の成果を生かして患者さんのQOLを改善できるように頑張りたいと思っています。



(循環器内科医師 上村 宗弘)

本年1月より、国府台病院循環器内科へ勤務することになりました、上村宗弘と申します。これまで、東京新宿区にある国際医療研究センター病院で約14年の間、研鑽して参りました。大学を卒業後、同院での研修の後に、循環器内科で心臓の病気に関わる診療を行ってきました。

息切れやむくみの原因となる心不全、胸の痛みの原因となる狭心症・心筋梗塞、動悸や脳梗塞の原因となる不整脈について、薬物治療、手術治療を行ってきました。国府台病院においても、引き続き同様の診療を行っていきます。また、国府台病院は心臓の問題だけではなく、様々な病気でお困りの方が通院されておりますので、各々の専門の医師とも連携しながら診療に当たってゆきたいと思っております。少しでも皆様のお役に立てればと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。



院内サービス部門のご案内 ～今回は、ヘアサロンヒカリを紹介します～

父の代から本店は57年国府台の地域で理容室を運営しております。国府台病院の院内でも永年理容業務をさせて頂いております。私は、この国府台病院で生まれ住んでいる地域に国府台病院がある心強さと共に誇りをもって現在、父の仕事を引き継ぎ患者様、患者様のご家族様とのご縁を大切に



一人一人に理容業務を通じて衛生的に、そして誠心誠意丁寧に施術させて頂くことを心掛けています。

院内理容室 ヘアサロンヒカリ

よりお気持ちに添えるよう福祉理容師認定証も取得しました。患者様にリラックス・スペースとしてご入院生活を快適にお過ごし下さるよう気分転換の場所として、そして私も患者様ご家族様のお話、ご家族愛に感銘を受けながら仕事をさせていただき貴重な時間として、ご利用者様のお心に答えられるよう丁寧な仕事をさせていただきたく所存です。

営業時間

月曜・木曜

9:00～17:00 (最終受付16:00)

職 場 紹 介 ～今回は、手術部門を紹介します～

手術関連診療部門長 麻酔科診療科長

東 俊晴

手術関連診療部門は、手術を受ける患者さんが「周術期」といわれる術前・術中・術後の一連の期間を安全に乗り切るために、必要な診療や支援を行っていくための診療チームです。外来で手術を勧められた患者さんの多くは、入院してはじめて周術期管理スタッフと面識を持つことになるでしょう。手術関連診療部門がどのように手術患者さんと関わっていくのか簡単に紹介いたします。



① 術前診察（術前訪問）：手術のストレスを完全に除去するためには、完全に眠った状態で手術を受けていただくのが最良だと思います。しかし痛みを感じないほどの深い眠り（鎮静）は多くの場合人工呼吸を必要としますので、深い麻酔が患者さんにとって最良とは言えない場合もあります。それぞれの患者さんの状態により、適切な麻酔の方法が標準と異なる事もあるのです。術前診察では麻酔科医が手術前の患者さんの全身状態を評価し、適切な麻酔法について説明を行います。また手術室の専門看護師が病棟を訪問し、手術当日に患者さんが経験することについて説明を行います。

③ 術後管理：手術を受けて病棟に戻った患者さんがより良い結果を得るためには、術後の呼吸や循環に大きな問題が発生しないことが重要です。術後の痛みが心臓の状態などにも影響を及ぼす可能性があります。そこで効果的に痛みを除去するための特別な処方や、必要に応じて神経ブロックを追加するといった処置が必要となります。しかし適切な術後管理が行われても、呼吸機能や腎機能に問題が発生し、人工呼吸器や人工透析器を使う集中的な治療が必要となる場合もあります。このような特殊な生命維持装置が正常に作動し続けるための操作を行うスペシャリストとして臨床工学士（ME）も手術関連診療部門に所属しています。

② 術中管理：麻酔で眠っている状態では、呼吸の状態が最適であることを常にチェックし続けることが重要です。また、全身麻酔以外の方法で手術を受ける計画となった患者さんには、局所麻酔薬の注射（神経ブロック注射など）による鎮痛が行われます。これらを手術関連診療部門のスタッフが専門的に行うことによって、外科系診療科の医師たちは手術に専念することができます。麻酔科医のみならず、手術専門看護師は術中管理に非常に重要な役割を担っています。

多くの患者さんやその家族にとって、手術を受けるということは一生に一度あるかないかの出来事と思います。初めてのことに不安はつきものです。手術を受ける前、ぜひ聞いておきたいことなどございましたら、術前診察を行う麻酔科医や訪問した看護師に遠慮なくご質問ください。入院する前に術前診察を行うこともできますので、担当医にご相談ください。

栄 養 一 口 メ モ

副栄養管理室長 阿部 裕二

☆☆ 今回のテーマ 旬の食材「貝」について ☆☆

立春が過ぎ、日中の日差しが心地よくなりました。少し前と比べると日も長くなったなあと感じます。

さて、花の便りが届き始めるこの時期、旬な食材の一つに「貝」があります。しじみが少し早めで1月から2月が旬で、あさり、はまぐりは2月から3月にかけて旬を迎えます。

それぞれ、特有の香りがあり、汁物から1品料理まで、また和食から洋食まで幅広く楽しむことができます。貝類の調理で大事なことは、よく砂をぬいてから料理していただくことです。貝が重ならないように平たく並べ、海水と同程度の塩水を貝の頭が浸るようにして暗い場所に置くのがポイントです。台所の片隅や 冷蔵庫で砂ぬきをする、貝が放った水で汚れてしまった！なんてこともあるので、蓋などで覆っておくとよいでしょう。

貝類の栄養は低脂質で、たんぱく質やカルシウム、鉄分、亜鉛を含みます。アミノ酸の一種であるタウリンという成分についても注目されています。



地域医療連携病院のご紹介

当院は平成19年1月に開院し、ようやく丸10年たちました。地域の皆さんの一般内科疾患の診療を中心にしていますが、ALSはじめとする神経難病患者さんの治療、療養支援にも力を入れています。呼吸不全、嚥下障害、また肺炎などの合併時にはいつも国府台病院にお世話になりこの場を借りて厚く御礼申し上げます。通院困難な難病患者さん中心に訪問診療も行っていますが、その時間帯は国府台病院内科の先生方に外来手伝っていただき大変助かっています。当院はリハビリテーションに力を入れており、現在理学療法士9人、作業療法士3人、言語聴覚士3人の体制で、外来通院患者さまだけでなく、通院困難な患者さまには訪問リハビリテーションを行っています。またつばさ訪問看護ステーションを併設し、医療依存度が高い在宅療養患者さまの療養を支援しています。さらにどうしても在宅療養が困難という障害度が高い患者さまが安心して療養できるよう、つばさハウス、つばさ式番館を曾谷と本北方に併設し、私どもスタッフがお世話させて頂いています。

住所：市川市国府台3-3-16

電話：047-374-0056

診療科：内科・神経内科

各種検診：市川市特定健康診断

予防接種：日本脳炎・二種混合・インフルエンザ・成人肺炎球菌

診療時間：平日：8:30~12:30、13:30~17:30

土曜：8:30~12:30

休診：土曜午後・日曜・祝日

※ 曜日によって医師・診療科・完全予約の日があります。

必ず電話でお問い合わせください。

吉野内科・神経内科医院

院長 吉野 英

昨年10月から介護予防、生活習慣病治療のため、無料でジョギング教室を開いています。

私自身メタボで患者さんに食生活や運動を指導するのはばかられるくらいでしたが、走り始めてから15kgの減量に成功し、LDLが約半分に減り、HDLが倍に増え、効果を実感しています。金メダリスト高橋Qちゃんらを輩出した佐倉アスリートクラブで長くコーチを務めたランナーと、女性サブスリー（フルマラソンを3時間以内に走り切る）ランナーをスタッフに迎え指導しています。患者さまだけでなく健康な方の参加も歓迎です。ラン初めの方も、フルベスト更新したいという方も、どうぞいらしてください。



第2回 院内感染対策研修会開催報告

当院では、全職員対象に年に2回の院内感染対策研修会を開催しています。

その2回目として、1月13日に順天堂浦安病院の佐々木信一先生をお招きして「耐性菌」というテーマで講義をしていただきました。

薬剤耐性とは、特定の種類の抗菌薬が効きにくくなる、または効かなくなることを言い、薬剤が効きにくい、効かなくなった細菌を「耐性菌」といいます。

耐性菌が増えると、抗菌薬が効かなくなることから、これまでは適切に治療すれば回復できた感染症が、重症化しやすくなり、さらには死亡に至る危険性が高まります。

薬剤耐性菌は、必要のない抗菌薬を使用する事で増加するといわれていますが、病院内で広がってしまうことも確認されています。

薬剤耐性は世界的にも問題視され、厚生労働省が対策を発表するなど、院内感染対策の中では、注目の話題です。

そこで、順天堂大学浦安病院での耐性菌を減らした経験

感染管理認定看護師 奥寺 佳緒理

を含めて、どのような感染対策が必要かをお話いただきました。細菌や感染は目に見えないため、感染対策で重要となる『予防効果』はわかりにくいものです。また、院内感染対策にはこれだけをやれば大丈夫というものではなく、いろんな対策を組みあわせて実施することが必要になります。

順天堂大学浦安病院の事例は、手を触れる場所に汚れが多く付着しているため、医療機器のボタンや手すり・ドアノブ・作業台の清掃と速乾式アルコール製剤を使用した手指消毒を組みあわせたことで、耐性菌を減らすことができました。

このような環境清掃と手指消毒は、感染防止対策の基本です。その基本を徹底して行うという【病院としての文化】にして継続して行う事を学んだ研修会でした。

当院を利用するすべての人に安心していただけるように、今後も院内感染対策を行なっていきたいと思います。

第18回オープンカンファレンス 開催報告

企画経営・医療連携・広報部門長
今村 雅俊

平成28年11月30日に第18回国府台病院オープンカンファレンスが開催されました。今年度の試みとして、当院からの発表だけではなく、連携医の先生方からのお話もお伺いするプログラムにしています。前回7月開催時は、吉野内科・神経内科の吉野英先生より「ALSの治療方法の開発」について貴重な講演をしていただきました。今回は、市川市歯科医師会専務理事であり、石井歯科医院の石井広志先生から「歯科診療における心身医学的対応」について、たいへん興味深い講演をして頂き、とても好評でした。臨床に関わる医師として、これからも地域医療を担っていらっしゃる近隣の先生方と交流の場を通じて、ますます連携を深めていければと考えています。

また、当院からは総合内科・箱島医師、心療内科・戸田医師、耳鼻いんこう科・渡邊医師、精神科・西村医師より症例報告がありました。診療科の垣根を越えたディスカッションを通して、意義のあるカンファレンスになったと思います。

この「国府台オープンカンファレンス」は次回3月31日の第19回が最終回となります。来年度からは、「医療連携フォーラム（仮称）」と名称変更し、市川グランドホテルなどの講演会場を利用して、さらに規模を拡大していく予定です。地域の病診連携をさらに進め、ますます地域に貢献できる医療機関を目指してまいります。

プログラム

症例報告 19時00分～20時00分

座長：田中 由利子 医師、田村 奈穂 医師

①「メトホルミンによる発症が疑われた大動脈周囲炎の一例」

総合内科 箱島 真理子 医師

②「門動圧亢進が認められた神経性やせ症過食排出型の一例」

心療内科 戸田 健太 医師

座長：賀嶋 俊隆 医師、伊藤 寿彦 医師

③「鼻・副鼻腔疾患の診断と治療」

耳鼻いんこう科 渡邊 荘 医師

④「てんかんにて通院中の患者がアルコール多飲によりせん妄状態を呈した一例」

精神科 西村 俊哉 医師

トピックス(特別講演) 20時00分～20時30分

座長：友田 衣早佳 医師

「歯科診療における心身医学的対応」

市川市歯科医師会専務理事

石井歯科医院 石井 広志 院長

児童精神科病棟の行事

東3病棟看護師長 多田 時江



2016年、12月1日、あいにくの曇り空でしたが、東3病棟では、餅つき大会が行われました。一斗缶に竈を設置し、中学生男子が中心となり、火の加減を見ながら、一番いい状態の餅米

に蒸かしました。今回、更新した石臼に餅が入ると、「ソーレ、ソーレ、頑張れ」と子どもたちみんなで大きな声を出して、餅をつくことができました。中学生女子が中心となり、磯部餅・きな粉餅・あんこ餅を作り、つきたてのお餅をおいしく食べることができました。竈でもち米を蒸かして、石臼、杵でつくという日本の伝統行事を学ぶことができた時間でした。

また、12月といえばクリスマス。12月14日に東3病棟ホールでクリスマス会を行いました。子どもたちが中心となり、司会や幕引きなど行い、出し物では、中



学生のピアノ演奏やダンス、マジックショーが披露されました。特に中学男子の「男気大会」ではしり相撲で一番を決めるなど、冬の寒さを吹き飛ばす熱気で盛り上がりました。病棟生活の良い思い出として残せたのではないかと思います。

2017年、新しい年を迎え、中学3年には高校進学に向けての受験が始まっていきます。そこで、1月6日、中学3年生は真間弘法寺に合格祈願に行きました。子どもたちの「合格」という神頼み、どうか叶いますようにと祈るばかりです。



第1回国府台病院 病院祭開催のご報告

平成28年12月3日（土）に病院祭を開催しました。テーマは“創ろう！地域の輪”、地域の方に今の国府台病院を広く知っていただき、身近に感じてもらうことが目的です。きっかけは7月の経営改善プロジェクト会議で、地域住民への病院PRとして病院祭を開催することが提案され、国府台病院では初めての試みが動き出しました。

第1回病院祭実行委員会を10月12日に開き、その後は毎週実行委員会を開催して準備を進めてきました。殆どの方が企画に参加したことのない中、手探りでイベントやレイアウト、広報の方法などを検討しました。病院祭の案内は、院内掲示やホームページに掲載するほか、周辺の自治会、広報いちかわ、市川よみうり新聞に掲載しました。



当日の朝、昨年7月にオープンした外来管理治療棟1Fホールに集まった職員は、院長の病院祭開会の挨拶の後、それぞれの持ち場の準備に取り掛かりました。会場は1階のホールと総合内科・呼吸器内科整形外科前の待合い、通路を中心に使いました。

身長・体重・体脂肪の測定、血圧測定、骨健康度測定など各種測定は、看護部と検査科のスタッフが担当しました。各測定場所では、看護師さんたちが普段の仕事の緊張感とは違った気楽な感じで訪れた方々の会話も楽しみながら測定しており、訪れた方も穏やかな感じに見えました。各種測定には、述べ369人の参加がありました。



健康相談では、医師による「生活習慣病、おなか」、「おしりと乳腺」、「睡眠障害」、「いたみ相談所」と特徴あるテーマで、待合いの一角に設けられたオープンスペースで訪れた方の相談を受けていました。また、外来ホールには、専門スタッフによる「お薬相談」、「栄養相談」、「心理相談」、「福祉相談」が置かれ、多くの相談者が訪れました。健康相談全体で127人の参加がありました。

院内紹介探検ツアーは、放射線科と検査科の検査機器の見学を2回に分けて行いましたが、案内人によるユーモアあふれた分かりやすいトークがとても人気でした。放射線科ではCTの3D画像の上映会も行われました。

整形外科外来前では、各職場でそれぞれ思考を凝らした職場案内ポスターが掲示されました。出来るだけ多くの人に見てもらえるよう身体測定、医師の健康相談が終わってお薬相談や栄養相談、心理相談、福祉相談に向かう途中に掲示しました。





リハビリのコーナーでは、リハビリ相談と患者さんがリハビリ訓練などで作成した作品が展示されました。その他、子供たちのために輪投げやバルーンアート、ストラックアウトなども用意しました。数日前からバルーンアートの練習をするなどして準備をしてきた職員も子供たちと一緒に楽しそうでした。

ホール中央では、院内売店や食堂などの協力で、焼きそば、サンドウィッチ、焼き菓子などを通常より安価で販売しました。1番目立つ入口正面に配置した結果、用意した焼きそばやサンドウィッチは当初に予定した数量が

早々になくなり、追加で作ったものまで昼過ぎには完売となりました。また数量限定で仕入れた肉まんとあんまん、大福も12時頃には全て完売するなど大変好評でした。

最後に、外来ホール中央の光庭に設置されたクリスマスツリーをバックにアンサンブルによる演奏が行われました。準備した席は満席となり、77名のお客さんと職員を合わせ120名程が薄暗くなり始めたホールで奏でられる演奏と歌声に耳を傾けました。

最終的な総合受付で登録された来場者数は239名、職員75名を加えると314名と大盛況でした。同時開催とした市民公開講座も相乗効果を生み、参加された方の中には、朝から終了時間まで1日過ごし、全てのイベントに参加したという方もいました。



今回は、初めての試みで不十分な点もたくさんありましたが、病院にとっても地域の方と触れ合える良い機会となりました。また、参加した職員も普段と違った形で地域の人たちと接することを楽しんでいるようでした。アンケートでも「良かった。楽しいひとときでした。職員の感じが良かった。」とのお褒めの言葉を多くいただき、やって良かったという思いを強く感じました。来年も開催の予定ですので、どうぞお出かけください。



クリスマスコンサートのご報告

去る平成28年12月17日（土）14：00～毎年恒例の国府台病院クリスマスコンサートが国府台病院正面玄関エントランスで開催されました。総勢120人ほどのお客さんにお越し頂き、盛会に終わることができました。いらしていただいた方、お力添えを頂いた関係者のすべての方々にお礼を申し上げたいと思います。ありがとうございました。

ご来場頂いた方は覚えていらっしゃると思いますが、声楽の女性の方々の豪華なドレスには目を奪われましたよね。いえいえ、見た目だけじゃありません。素晴らしい歌声が心に響いたのではないのでしょうか。実は出演者すべてではないのですが、ほとんどが国府台病院の職員で構成されたアンサンブル国府台という楽団のコンサートです。医師や看護師、事務部職員が中心となって活動しています。手作り感満載で心暖まるコンサートとして、もはや国府台病院の年間行事の一つとして定着しています。

場を共有して、同じ瞬間瞬間を感じて、音楽を通して出演者とお客さんが触れ合うといった体験が生演奏会の魅力だと思います。それは日常にはない、とてもエキサイティングな体験ですし、イヤホンから聞こえる音楽とは違

アンサンブル国府台 田村 奈穂

う感動があります。是非次のクリスマスコンサートにお越し頂ければと思います。そうすれば、「（職員による）こういうコンサートがあるなんて、良い病院なんだね～」という感想を頂けるのもうなずけると思います。でも、お客さんに楽しんでもらいたいといいながら一番楽しんでいるのは出演者達だということ、気付いてしまうかもしれませんね……。次のコンサートへのご来場を団員一同心からお待ちしております！！



第24回 肝臓病教室の開催報告

平成28年12月10日（土）に第24回肝臓病教室を開催しましたところ、多くの方にご参加いただきました。



演者の古田

まず、古田先生（東邦大学医療先センター大森病院・栄養部・栄養管理室長）より「C型肝炎ウイルス治療後における食事・栄養療法の進め方」の講演がありました。C型肝炎ウイルスが

排除されても食事・栄養療法を続ける必要性を述べられました。カロリーの過剰摂取にて脂肪肝やNASH（非アルコール性脂肪性肝炎）にならないようにするためであり、これはC型肝炎であった方に限らず、すべての方に当てはまることです。また、C型肝炎ウイルスが体内に存在する場合は、鉄が過剰に体に取り込まれるので、C型肝炎の方には鉄の摂取を控えるようにとの指導があったと思いますが、ウイルスが消えた方は、そのまま鉄摂取制限を続けると鉄不足になることを講演されました。状態に応じた食事療法が必要であることを強調されました。

次に、溝上ゲノム医科学プロジェクト長より、「C型肝炎治療の現状と未来～全員治癒に向けて～」の講演がありました。C型肝炎は医療行為や社会情勢により、世界各地に広まったという歴史、C型肝炎に対する治療の歴史、そして最新のC型肝炎治療について講演頂きました。また、ほとんどのの方が内服治療にてウイルスを消失出来るように

肝炎・免疫研究センター 肝疾患先端治療室長

村田 一素

なりましたが、ウイルス消失後も手放して喜ぶのではなく、血液検査（AFPやM2BPGiなど）、画像（エコーやCTなど）を用いて経過観察する必要性を述べられました。M2BPGi



演者の溝上

はC型肝炎の線維化や炎症を反映する血液検査項目で当院でも測定可能です。また、現在は12週間の内服治療が必要ですが、さらに短い治療期間で治療することが可能な薬剤の開発も行われていることを教えていただきました。次回、第25回肝臓病教室は平成28年 3月11日（土）に今回と同じ肝炎・免疫研究センター研修室にて行います。講演内容は「肝臓がん抑制を目的とした肝硬変の栄養食事療法」、「B型肝炎の基礎と臨床～血液検査の見方、診断、治療～」です。乞うご期待ください。

なお、今回同様、次回も肝臓病教室に参加される方限定で、受付時に院内食事処「あじげん」の10%お食事割引券をお渡しいたします。少し早めに来院して、院内でゆっくりランチを摂られてから講演をお聞きください。今後も皆様に役立ち、かつ病気に対する不安を解消させるような肝臓病教室を行ってまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

地域医療連携室からのお知らせ ～今回は消化器・肝臓内科のご紹介～

病院を受診される方のほとんどは、健康や病気の状態に不安感や疑問を持っています。そういった方々には病院は決して楽しいところではないでしょう。しかしその一方、健康で豊かな生活を送るためには、病院を受診し、サポートを受けることは大切なことです。

消化器・肝臓内科は、そのような不安や疑問を持って病院を受診された患者さんが、安心して検査・治療を受けられるように、誠意をもってサポートする事をモットーとしています。（消化器・肝臓内科ホームページより）

以前は「消化器科」が消化器領域のすべてを一つの診療科として取り扱っていました。しかし、医学の細分化が進み、医療においても専門性と質の高さが求められるようになった現在では「消化器内科」と「肝臓内科」の二つの診療科に分けて診療しています。

●消化器内科：苦痛の少ない内視鏡検査が最大の特徴と言えます。麻酔薬を適切に使用することで、検査時の不快感を大きく軽減しています。「もう2度としたくない・・・」が以前の内視鏡検査後の多くの感想でした。現在では「思っていたより楽だった」と感謝の言葉をよく頂いています。また、消化器内科の医師は、消化性潰瘍や胃がんの主な原因である「ピロリ菌」のエキスパートです。ピロリ菌を指摘された方、ピロリ菌が心配な方はぜひ受診して下さい。きっと皆さまのニーズにお応えできると

企画経営・医療連携・広報部門長

今村 雅俊

思います。さらに、胃がん、食道がん、大腸がんを早期に発見できれば、お腹を開くことなく、内視鏡治療で根治できる時代になりました、消化器内科は、この内視鏡治療においても全国屈指の治療成績をあげています。

●肝臓内科：消化器内科が、食道、胃、小腸、大腸などの消化管疾患を中心に診療するのに対して、肝臓内科は肝臓、胆嚢、膵臓などの消化器領域における実質臓器を中心に診療しています。肝疾患に関しては、その原因に関わらず、慢性肝炎から肝硬変・肝がんに至るまで幅広く対応しています。特に肝がんに対しては、局所治療（ラジオ波焼灼療法）をもっとも得意としており、県外からも多数の患者さんが治療に来られています。また、当センターに併設されている「肝炎・免疫研究センター」には全国から多数の有能な人材が集結しており、外来診療を中心に協力して頂いています。

この二つの診療科は、独立し別々に診療を行っているわけではありません。上村直実院長の下、お互いに協力しあいながら日々の診療を行っています。特に若手の医師は6ヶ月ごとに二つの診療科をローテーションしながら、幅広くすべての消化器疾患に対応できる技量を身につけていきます。

これからも、近隣の皆さまに役立つ医師であることを使命と考え、さらに精進していきたいと考えています。

市民公開講座のご報告

胃がん・大腸がん治療最新事情
～今どきの内視鏡・腸内環境って何？～

最近、注目されている「腸内フローラ」という言葉を知っていますか？腸内細菌が集まった群れを「腸内フローラ」または「腸内細菌叢」と呼んでいます。腸内環境を整える大切な役割をしており、発がんリスク低減作用も期待されています。

今回、「胃がん・大腸がん治療最新事情 ～今どきの内視鏡・腸内環境って何？～」をテーマとし、平成28年12月3日（土）に市民公開講座を開催しました。当日は、病院祭も行われており、多くの皆さまにご来院いただき、市民公開講座へも91名の方が参加されました。

当院の内視鏡チームが行っている最新の内視鏡検査についてお話ししました。痛みが少なく、早期のがんは内視鏡で切除できます。みなさん実際の内視鏡画像にくぎ付けでした。また、ピロリ菌は胃がんになるリスクが大変高く、除菌が大切です。日本の検診率は海外に比べて低く、日本人の2人に1人が、がんになるこの時代、早期発見のためにがん検診をぜひ受けて欲しいことをお伝えしました。また健康な腸内環境を保つために、乳酸菌飲料やオリゴ糖の摂

がん化学療法看護認定看護師 山崎 美穂 がん性疼痛看護認定看護師 津國 志保

取をお勧めしました。参加者の中には熱心にメモを取る方も多く、ピロリ菌の原因や除菌後の効果などの質問がありました。講演後のアンケートでは多くの方々に「参考になった」や「受診をしてみたい」との嬉しいお言葉を頂戴しました。

これからも、近隣にお住いの皆さまに新しい情報をお届けしたいと考えています。次回もぜひご参加をお待ちしております。



第2回院医療安全研修開催報告

副臨床検査技師長 山口 秀樹

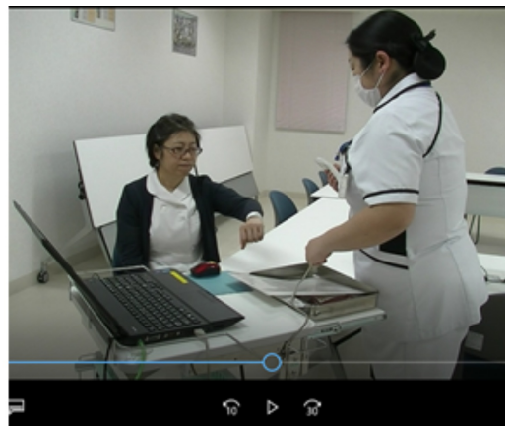
平成29年1月19日（木）、国府台病院に勤務する全スタッフを対象とした、医療安全研修会を開催しました。今回の研修では、「より安全な輸血を目指して」をテーマに、輸血療法の目的や副作用、輸血実施マニュアルの再確認、安全性の高い運用方法などを解説しました。以下に本研修の要点を示します。

<本研修の要点>

- ①輸血療法の目的と効果
- ②輸血療法の危険性（副作用）
- ③国内で発生した輸血医療事故事例の検証
- ④「安全な輸血」を行うためのチェック体制（口頭指示の是正・声出し確認によるダブルチェック・思い込みによる確認事項の欠落防止など）
- ⑤検体採取時、血液製剤払い出し時、輸血実施時における認証作業の徹底
- ⑥当院輸血実施マニュアルの再確認（マニュアルに沿った運用ビデオを供覧）
- ⑦「安全な輸血」を行うためのチェック体制の再確認

本講では、輸血医療事故の防止対策を徹底することが重要課題であり、患者誤認防止のための認証作業（患者ID番号・患者氏名・血液製剤の製造番号・電子カルテ）と、声出し確認によるダブルチェックを確実に実践する事が、最大の医療安全対策であることを示した。

なお、今回の研修会においては、「輸血運用マニュアルに沿った運用ビデオ」の製作に協力いただいた、青木孝彦先生・小池優佳先生・荒川由紀子看護師長・久野雅子看護師と、企画構成に協力をいただいた、中央検査部の石田剛先生・樋口久晃技師長・小林真二主任技師・江守佳奈子技師に感謝を申し上げます。



マニュアルに沿った運用ビデオより
血液製剤受領時の血液製剤認証風景
輸血実施時の患者認証風景

第25回 肝臓病教室のご案内

日時：平成29年3月11日（土）
14:00～16:00
場所：国立国際医療研究センター国府台病院
肝炎・免疫研究センター研修室A

お問い合わせ先

肝炎・免疫研究センター 村田 一素
TEL: 047-375-4738

- ※ 予約は不要で、参加費は無料です。
- ※ 終了後に個別相談（肝炎、肝硬変、肝癌を中心に）も行います。
- ※ ご相談のある方は血液検査・CTなどの資料をお持ちいただくと、状態に応じた詳しい説明をお受けになれます。



編集だより

編集部

“日蓮宗大本山・正中山法華経寺をご紹介します”



JR下総中山駅北口から北へ10分程歩くと、鎌倉時代から伝わる日蓮宗大本山・正中山法華経寺があります。

日蓮宗大本山・正中山法華経寺のあるこの中山の地は、日蓮が法難の際の安らぎの地として選んだ場所であり、また説法の地としても有名です。境内には多くの国宝、重要文化財、市川市指定文化財があり、歴史が色濃く残る場所となっています。また日蓮宗の祈祷根本道場であり、毎年1月1日から2月10日まで世界三大荒行の1つでもある『寒百日大荒行』が行われることでも知られている。

現在は梅が見頃を迎えておりますが、春には桜、秋には紅葉と四季折々の自然も感じることができます。

市川市の歴史と自然に触れることができるこの日蓮宗大本山・正中山法華経寺を訪れてみてはいかがでしょうか。



仁王門に咲く梅



重要文化財の祖師堂



本 院



交 通

- ・京成中山駅から 徒歩5分
- ・JR下総中山駅から 徒歩10分